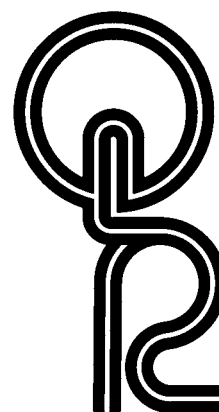


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 23 No.1, 2016



自然史学会連合講演会で開かれた体験教室の様子。2015年11月22日。  
撮影：小森次郎。詳しくは、本通信3ページ。

---

---

Vol. 23 No. 1

February 1, 2016

---

---

地球惑星科学連合 2016 年大会案内 . 2	学会組織改革に関するアンケート結 果..... 5
2016 年大会案内 (第 2 報)【再掲】... 3	組織改革委員会議事録 ..... 5
学会設立 60 周年を迎えるにあたっ て..... 3	幹事会議事録..... 6
自然史学会連合講演会報告 ..... 3	会員消息..... 8
国際ワークショップ案内..... 4	

---

---

## ◆日本地球惑星科学連合 2016 年大会のお知らせ

2016年5月22日(日)～5月26日(木)に幕張メッセで開催される日本地球惑星科学連合2016年大会の発表申し込みが1月7日から開始しております。多くの会員のみなさまが第四紀学会主催/共催のセッションで発表して下さることを心よりお待ちしております。

大会に関する詳細は [http://www.jpгу.org/meeting\\_2016/](http://www.jpгу.org/meeting_2016/) をご覧ください。

主な日程は下記の通りです。

- 1月 7日(木) 投稿・参加登録開始
- 2月 3日(水) 早期投稿締切(～24:00)
- 2月 18日(木) 投稿最終締切(～12:00)
- 3月 10日(木) 発表プログラム web 公開(予定)
- 5月 10日(火) 事前参加登録締切(～17:00)
- 5月 12日(木) 予稿 web 公開(予定)

第四紀学会では

・H-QR15 ヒト-環境系の時系列ダイナミクス

を単独開催します。また、

・S-SS31 活断層と古地震

を共同主催します。

これらのほかに

・A-HW16 流域の水及び物質の輸送と循環-源流域から沿岸域まで-

・H-SC16 人間環境と災害リスク

・M-IS11 津波堆積物

・M-IS07 ジオパーク を共催いたします。

申し込みの際に、「口頭講演もしくはポスター講演」または「ポスター講演」のいずれかを選択いただきます。ポスター講演のみを希望される場合以外は、「口頭講演もしくはポスター講演」を選択してください。

会員の皆様の積極的な参加を期待しております。

### 【投稿料・参加登録料】

▶早期投稿：2016年1月7日(木)～2月3日(水) 24:00

投稿料 ¥3,000/1件(図の掲載 ¥500/1件)

▶通常投稿：2016年2月4日(木)～2月18日(木) 12:00(正午)

投稿料 ¥4,000/1件(図の掲載 ¥500/1件)

▶事前参加登録料(2016年5月10日17:00まで)

<会員>

一般全日程： ¥21,000      一般一日券： ¥13,000

小中高教員全日程： ¥11,000      小中高教員一日券： ¥7,000

大学院生全日程： ¥11,000      大学院生一日券： ¥7,000

<非会員>

一般全日程： ¥30,000      一般一日券： ¥21,000

小中高教員全日程： ¥18,000      小中高教員一日券： ¥13,000

大学院生全日程： ¥18,000      大学院生一日券： ¥13,000

▶当日参加登録料(2016年5月10日17:00より5月26日まで)

<会員>

一般全日程： ¥28,000      一般一日券： ¥18,000

小中高教員全日程： ¥15,000      小中高教員一日券： ¥10,000

大学院生全日程： ¥15,000      大学院生一日券： ¥10,000

<非会員>

一般全日程：	¥40,000	一般一日券：	¥25,000
小中高教員全日程：	¥24,000	小中高教員一日券：	¥18,000
大学院生全日程：	¥24,000	大学院生一日券：	¥18,000

パブリックセッションにのみ参加される方、シニア（70 歳以上）の方、学部生以下の方は無料  
 同伴者（大会参加者のご家族であり、地球惑星科学関係の学生及び研究者ではない方）  
 同伴者全日程券：2000 円 同伴者一日券：1000 円

※上記の金額は全て税抜き  
 （上記 web 情報：2016 年 1 月 13 日現在）

◆日本第四紀学会 2016 年大会案内（第 2 報）【再掲】

日本第四紀学会 2016 年大会は、下記の日程で開催予定です。  
 詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。  
 開催期間：2016 年 9 月 17 日（土）～9 月 20 日（火）  
 開催場所：千葉大学西千葉キャンパス・けやき会館

日 程：

- 9 月 17 日（土）シンポジウム・一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会
- 9 月 18 日（日）シンポジウム・一般研究発表（口頭およびポスター）
- 9 月 19 日（月）シンポジウム・一般研究発表（口頭）  
 （シンポジウムは第四紀学会 60 周年記念シンポジウムを検討中）
- 9 月 20 日（火）巡検

◆学会設立 60 周年を迎えるにあたって

今年は 1956 年 4 月 29 日に国立科学博物館において学会設立総会が開催されてから 60 年目にあたります。学会では今年度開催される千葉大会を 60 周年記念大会と位置づけて、準備を進めています。2015 年大会の総会で設置が承認された「60 周年記念事業検討委員会」については、昨年 11 月 29 日に事前打合せが行われ、検討をお願いする委員の依頼状況の確認のほか、過去の記念大会におけるシンポジウムのテーマの確認や記念行事として実施すべき事業について検討が行われました。学会では今後も着々と準備を進めて参りますので、千葉大会への大勢の会員のみなさまの参加をよろしくお願い致します。

◆自然史学会連合講演会 体験教室出展の報告

小森次郎（帝京平成大学）

今年最後の連休の中日となった 11 月 22 日、三重県総合博物館（三重県津市）で自然史学会連合講演会「自然史への招待～自然史を見る目、自然を解き明かす心～」が開催されました。湖沼堆積物を用いた津波研究の話（岡村 眞会員（高知大学））など 4 件の講演に続き、午後には一般向けの体験教室が開かれ、日本第四紀学会も昨年に続いてブースを出展しました（出展の担当は近藤玲介

会員（皇學館大学）と筆者）。

本講演会を主催した自然史学会連合は 1995 年に発足した自然史科学関連の連合体で、2015 年 11 月現在で国内 40 の学協会が加盟しています。例年 11 月下旬には各地の博物館を持ち回りの会場として、自然史科学の一般普及を目的とした講演会を開催しており、2013 年からはブース型の体験教室も併設されるようになりました。本年の体験

教室は「わたしの目で見える自然史」と題され、日本第四紀学会のほか日本花粉学会、日本霊長類学会、日本藻類学会、日本人類学会、日本鱗翅学会、日本ベントス学会、三重クモ談話会、三重昆虫談話会、および三重県総合博物館による出展がありました。

一昨年の体験教室は講演会と同時進行で解放されていましたが、昨年からは午後の単独の企画として開催されるようになり、本年もかなりの来客となりました。各ブースでは立体的な装飾を施したり、揃いのTシャツを着たりと工夫を凝らした展示が行われ、特に13時半の開場直後はすれ違うのも難しいほどの混雑ぶりで、全体を通して大学の学園祭のような賑わいとなりました。来年以降もこの企画が続くとしたら、ブース型体験教室は自然史学会連合の主要なイベントになるのではないのでしょうか。

その中でわが第四紀学会のブースは「見え見え～三重の地形と地質」と題して、御在所岳、答志島、伊勢平野といった三重県内の代表的な地形の立体模型の作成を企画しました（写真）。当初の計画では立体模型を作りながらそれぞれの地形・地質の成り立ちや第四紀という時代の紹介を行う予定でしたが、立体模型の作成の部分で十分に盛り上がってしまい、第四紀学や学会について一般への理解がどの程度深まったのか、担当の二人には若干の不安が残りました。今後同様の企画がある場合は来客者からアンケートをとり、内容の理解度や満足度を確認する必要もありそうです。なお、本学



立体地形の模型をつくる参加者

会のブースへの来客数は開催の3時間で22名でした。今回のような立体模型の作成は、第四紀学に焦点を絞ったとしても全国各地を対象とすることができることから、他のアウトリーチ企画でも応用が利くテーマです。しかし、模型作りとその後の説明に数十分の時間を要することから、一人ずつの滞在時間が長い（お客の回転が悪い）という性質があります。宣伝・普及の効果との関係についてはさらに検討が必要です。また、ブースへの呼びこみや配布する学会紹介パンフレットの説明要員などを考えると3～4人態勢での実施が望まれますが、学会としては同様の機会を今後も活用していくことが重要と考えられます。

### ◆古地震・活構造・地震考古学に関する国際ワークショップ開催のご案内

2016年5月31日から6月4日にかけてアメリカ合衆国のコロラド州クレストーンにおいて国際ワークショップ「7th PATA Days -Faults of the Wild West-」が開催されます。この会合はINQUAのTERPRO委員会のほか、クレストーン科学センター、GEO-HAZコンサルティング会社、アダムス州立大学、コロラド単科大学、コロラド大学ボルダー校が主催しています。会合の実行委員長は、GEO-HAZコンサルティング会社会合のMcCalpin氏です。会合ではセッションやポスター発表のほか、活断層のトレンチ調査現場への見学が行われます。関連分野のみなさまには、海外における活断層・古地震研究やその調査現場に接する良い機会ですので、ぜひ参加をご検討下さい。参加申込みにかかる日程は下記の通りです。

- 2月1日：発表申込締切
- 3月1日：参加登録締切、発表要旨投稿締切

この会合の内容や詳細な日程等については、ファーストサーキュラーをウェブサイト (<http://www.terpro.org.ar/pata-2016-flyer-v6.pdf>) からダウンロードして確認して下さい。また、今後の動向については、TERPRO委員会の会合開催案内ページ (<http://www.terpro.org.ar/meetings.htm>) およびPATA Daysのホームページ (<http://www.pata-days.org/>) をご参照下さい。

ご不明な点がございましたら、TERPRO副委員長の吾妻 崇 (t-azuma(at)jaist.go.jp) へメールでお問い合わせ下さい。

## ◆学会組織改革に関するアンケート結果について

2015年総会におきまして、学会の組織改革のうち選挙区分の領域に関する議論が行われました。そこでの議論を受けて、組織改革委員会で第5の領域の設定が検討されています。この第5の領域は、社会貢献を主眼として活動を行っている会員からなることを想定しています。この案につきまして、第5の領域を加えた場合に会員が集中することがないかなど、会員の専門領域の分布を確認するために、アンケート調査を再度実施致しました。12月上旬にアンケート用紙を会員に郵送で送らせて頂き、12月末日を締切として調査を実施しましたところ、425通の回答を回収することができました。集計結果は下記のとおりです。

領域1「気候・海水準変動及び海洋変動」	38
領域2「陸上の諸プロセス」	134
領域3「層序と年代基準」	65
領域4「人類と生物圏」	110
領域5「現代社会に関わる第四紀学」	77
無選択	1
計	425

一部のアンケート票には領域区分や組織改革に関する意見が書かれていました。アンケート結果及び頂いた意見を踏まえて、組織改革委員会で再度検討を行い、1月30日に開催される評議員会に会則及び役員選挙規定の改定案を提案する予定です。

## ◆日本第四紀学会 2015年度第1回組織改革委員会議事録

日時：10月25日（日）10:00～16:00  
 場所：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 408 会議室・広島大学東京オフィス  
 出席：小野 昭会長、奥村晃史副会長、吾妻 崇、北村晃寿、水野清秀、百原 新  
 欠席：斎藤文紀副会長、小荒井 衛、須貝俊彦

## ＜審議事項＞

## 研究領域区分の検討

2015年度第1回評議員会と総会において組織改革委員会の提案した4つの研究領域区分を審議した結果、4区分に加えて、「社会に関わる第四紀学および社会普及に関わる諸テーマ」を扱う区分の設置の検討が要請された。審議の結果、要請に応じた区分（領域5）を設置することとし、さらにこの設置に伴い他区分の名称、説明、キーワードの一部を修正した。また、5つの領域区分の所属人数を見積もるために、再度アンケートの実施を以下の日程・手順で行うこととした。

- (1) アンケートの文面を北村委員が11月初旬までに作成し、組織改革委員会で確認後、幹事会に配送を依頼する。
- (2) アンケートは12月末必着とし、組織改革委員会で集計する。
- (3) アンケートの結果、領域5の所属人数が40%を超えた場合には、領域5を分割し、領域区分数を6とする。

## 選挙制度の検討

2015年度第1回評議員会と総会において組織改革委員会の提案した選挙制度を審議した結果、投票権を領域の所属会員に限定する方式ではなく、他領域の所属会員にも選挙権を与え、広く意見を求める方式の検討が要請された。これを受けて、審議した結果、要請に加えて、領域の主体性の確保、新たな選挙で導入する立候補制の安定性を考慮し、選挙方法案を以下の通りに変更した。

- (1) 1つの領域の立候補・推薦候補者への投票権は、正会員の全てが有する。ただし、当該所属会員の票は一人1票とし、他領域の所属会員の票は一人0.2票とする。
- (2) 1つの領域の立候補・推薦候補者以外への投票権は、当該所属の正会員のみが有する。
- (3) 各領域の評議員定数は会員数30名につき1名とする。
- (4) 新しい選挙では、評議員の任期の規定は設けないこととする。今後、多選制限の代わりに定年制の導入を検討する。
- (5) 会計監査は、評議員会で評議員以外から選出する。

## 会則と役員選挙規定の改訂

会則と役員選挙規定の改訂の担当者と日程を審議し、以下の通りとした。

会則の改訂案は水野委員、役員選挙規定の改訂

案は北村委員が11月30日までに作成する。その後、組織改革委員会で確認し、1月24日の幹事会に提出する。

#### その他

日本第四紀学会会員サービス向上検討委員会の答申にある若手・中堅研究者のための顕彰制度の改革について検討し、継続審議とした。

### ◆日本第四紀学会 2015 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2015年11月23日13:00～17:10

会場：広島大学東京オフィス408会議室

出席：小野（会長）、奥村（副会長）、吾妻（幹事長）、小荒井（渉外）、齋藤めぐみ（広報）、藤原（編集）、米田（行事）、百原（庶務、議事録）、伊津野（事務局）

欠席：植木（会計）、卜部（編集）、小森（企画）、兵頭（顕彰）、齋藤文紀（副会長）、須貝（渉外）

#### <報告事項>

**幹事長**：1. 日本学術会議主催公開講演会の後援、第25回環境地質学シンポジウム（地球汚染－医療地質－社会地質学会主催）の共催の承認。ジオパーク新潟国際フォーラムへの後援についての審議。2. JpGUセッション「流域の水及び物質の輸送と循環－源流域から沿岸域まで－」、「地球科学へのルミネッセンス年代測定の貢献」の共同提案の承認。3. 第13回JpGU学協会長会議報告。4. 転載許可申請についての検討。

**庶務**：2015年度第1回幹事会議事録の作成。

**顕彰**：第四紀通信掲載用の学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞の募集記事の作成。

**会計**：広報書記およびHP担当者の謝金支出の了承。

**編集**：54巻6号の編集状況。55巻1号以降の編集状況。

**行事・企画**：1. 科研費補助金成果公開費は申請見送り。2. 自然史学会連合講演会での体験講座（11月22日、三重県総合博物館）に第四紀学会の体験ブースを出展。3. 2015年受賞者講演会の準備（第四紀通信12月号に案内記事掲載、日時の確認、講演会ポスターの作成、HPへの掲載）。4. 2016年千葉大会の予定について第四紀通信に案内記事を掲載。5. 60周年記念事業について、11月29日開催の委員会の審議結果に基づき準備を始めることを確認。

**渉外**：1. JpGUに「ヒト－環境系の時系列ダイナミクス」、「活断層と古地震」（活断層学会・地震学会・地質学会との共催）をセッション提案した。2. JpGUセッション「人間環境と災害リスク」の共同提案の審議。3. 自然史学会連合総会（12月19日）への出席について。

**広報**：1. 公募情報、行事・講演会案内の学会ML

への配信。2. 学会HPの役員一覧を現行の情報に更新。3. 第四紀通信第22巻6号の編集。

**INQUA 関係**：プロジェクト募集について。

**地球惑星科学連合**：参加費、AGUとの合同のセッションについての報告。代議員選挙結果、理事選挙の公示についての報告。

**事務局**：1. 学会宛郵送物の確認。2. 後援依頼、転載許可申請。3. 学術著作権協会より電子的複製権の管理委託についての申請依頼について。

#### <審議事項>

1. 入退会の確認・承認。入会1名の承認。退会4名の申請を確認。退会者の扱いについて審議。年度途中の退会は、会費振込済みの人については会誌を継続して受け取るかどうか事務局が希望を確認。会費が振り込まれていない場合は会費を請求し、次回幹事会で退会の承認を決定することとした。
2. 第2回評議員会（1月30日）について。12月18日付けで案内送付。議事を検討した。
3. 受賞記念講演会について。司会進行担当の確認。
4. 学会賞等受賞者候補者選考委員の選出について。学会賞受賞者候補者選考委員11名、論文賞受賞者候補者選考委員12名の候補をあげた。12月18日付けで評議員に選挙用紙を送付。論文賞・奨励賞等候補論文リストの作成を事務局に依頼した。
5. 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会からの依頼について。新に設立される「地質・地盤情報理活用・活用化研究会」に第四紀学会が会員として引き続き参加する方向で検討。
6. 防災学術連携体について。参加する方向で進めることとした。
7. 組織改革委員会検討状況について。10月25日開催の委員会報告を行った。
8. 会員向けアンケートについて。新研究区分アンケートの内容を確認し、紙とメールで同時に全会員向けアンケートを行うこととした。返信期限を12月31日とする。
9. 2016年大会（千葉大学：9/17-9/20）および60周年記念行事について。今後の検討事項を確認した。
10. 第四紀通信（2月発行分）の掲載記事について。執筆担当と提出期限を確認した。

## ◆日本第四紀学会 2015 年度第 3 回幹事会議事録

日時：2015 年 12 月 25 日 13:00～17:00

会場：広島大学東京オフィス 408 会議室

出席：小野（会長）、奥村（副会長）、斎藤文紀（副会長）、吾妻（幹事長）、植木（会計）、卜部（編集）、小森（企画）、須貝（渉外）、米田（行事）、百原（庶務、議事録）、伊津野（事務局）  
欠席：小荒井（渉外）、齋藤めぐみ（広報）、藤原（編集）、兵頭（顕彰）

## ＜報告事項＞

**幹事長**：1. 60 周年行事検討委員会（11 月 29 日）の報告。2. 転載許可申請 1 件、内容を確認し転載申請の対象とはならないと返答。

**庶務**：1. 第 2 回幹事会議事録の作成。2. 功労賞受賞者選考のための役職経験に関する資料の更新を行った。3. 2015 年度第 2 回評議員会開催案内とともに学会賞および論文賞候補選考委員の選挙用紙を評議員に送付した。選挙用紙に記載した学会賞選考委員候補者の訂正について評議員宛メールの送付と文書の発送を行った。4. 地盤工学会関東支部からの後援依頼の承認。

**会計**：広報書記の謝金支出の承認。

**編集**：1. 55 巻 1 号および投稿原稿の編集状況。2. 早稲田大会特集号の編集予定。3. 著者に配布する別刷代替の PDF の著作権の扱いについて。4. INQUA 報告記事。

**渉外**：1. 防災学術連携体への加盟手続き。設立総会・フォーラム（1 月 9 日）への出席者登録を行った。2. 自然史学会連合総会（12 月 19 日）の報告。

**広報**：1. 第四紀通信 22 巻 6 号を発行。2. 会員 ML への情報配信。3. 学会 HP 更新作業。

**事務局**：1. 年度途中退会希望者の会費納付状況の確認。2. 学会宛郵送物の報告。3. 組織改革にかかる会員向けアンケートの発送。4. 2015 年度第 2 回評議員会開催案内と学会賞・論文賞受賞者候補選考委員選挙用紙の送付。5. 新研究委員会の設立申請受け付け。6. 学術著作権協会からの電子的複製権の管理委託についての契約依頼について。契約は行わないこととした。

**日本学術会議関係**：INQUA 分科会を 12 月 26 日（土）に東京大学地震研究所で開催予定。

**INQUA 関係**：LOC 幹事会第 39 回会合を 12 月 25 日に広島大学東京オフィスで開催。第四紀研究へ

の報告原稿の準備。経費残額を第四紀学会に寄付する予定。学術会議および INQUA 向けの報告を準備中。

## ＜審議事項＞

1. 名誉会員候補者選考委員の選考。久保純子・渡邊真紀子・松浦秀治・佐藤宏之・水野清秀の 5 会員に選考委員の依頼を行う。第 2 回評議員会に諮り承認をとる。

2. 功労賞受賞者選考について。ひきつづき幹事会で検討を行うことにした。

3. ジオパーク支援委員会。6 月中に考古、人類、土壌分野に働きかけるようなシンポジウムの開催予定、会場を検討中。第 2 回評議員会には日程と場所を報告する。ジオパークを会場に 2017 年第四紀学会大会を開催する提案があった。

4. 60 周年記念行事・千葉大会について。60 周年行事検討委員会（11 月 29 日）の報告に基づき検討。総会を午後（13～16 時または 16～18 時）に変更すること、ポスター会場のスペースを十分確保するよう提案することとした。3 月初旬までに方針（統一テーマ、セッション内容）を決めることを確認。

5. JpGU2016 年大会のプログラムについて。第四紀学会関連のセッションのコマ割り結果の報告。「ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」セッションは最終日午前。第 3 回評議員会は、6 月開催予定のジオパークのシンポジウムにあわせて行うこととした。

7. だいよんき Q & A について。回答依頼者を選定。だいよんき Q & A は今後も継続することを確認。

8. 第四紀通信第 23 巻 1 号の掲載記事について。執筆担当と提出期限を確認した。

9. “Island Arc” 編集顧問継続について。鈴木毅彦会員に継続を依頼する。

10. INQUA Website について：INQUA LOC の解散後は第四紀学会が INQUA Web site を維持することとした。

11. その他。1 月 30 日記念講演会の担当確認。2017 大会、2018 大会会場候補を検討。JpGU フェロー推薦について。組織改革委員会アンケート開票予定の確認。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性  
ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル  
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176